

品川支部

平成31年4月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel. 3442-7075

4月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

今年も人気の焼きそば 教区創立記念祭に出店

毎年四月四日は教務支庁の設立記念日の祭典が行われます。萩外荘移転も完了し、現在更地になって、当日の起工式を待っている状態です。本部では真柱さまのご回復も順調で、一部おさづけの拝戴も始まり来年の創立百十周年にお迎えできる事を期待して布教の家の建築も始まります。

第二部は、どんぶり物、麺類、空揚げ、焼き鳥やデザート等、各支部を中心にかなり力の入った模擬店が出店され、かなり美味しいです。

品川支部は、いつも一番に売れ切れの焼きそばを今回も担当致します。



記念祭祭典風景



二部模擬店・アトラクション

☆支部行事のお知らせ

・二十九日全教一斉ひのきしんデー
(詳細は2頁)

・支部例会四月は二十九日のひのきしんデーの為に三十日の例会及び幹事会は有りません
幹事会は九日のみです

・神名流し

一日(月)十時から、大井町駅前にて

・在宅センターひのきしん

四月二十六日(金)午前九時半〜十一時

・教区ひのきしん

担当は都南組ですので宜しくお願い致します

☆教務支庁からのお知らせ

・教区創立記念日

今回の記念祭は、いよいよ始まる布教の家の建築に伴い、祭典の終盤に起工式が組み込まれました。模擬店の開始を例年通りにするため全体に三十分繰り上げ十時からの祭典となります

尚、品川支部は模擬店で焼きそばを担当致しますので、ひのきしん宜しく願います
他支部でも原価構わず美味しい屋台が多数出ますので、一時半からの二部もご参加下さい

・東京わかぎ塾(中学生錬成会)参加募集

毎年五月に行われています東京わかぎ塾の日程が決まりました。五月十一、十二日開催で五月四日までに、お申し込み下さい

・支部婦人会からのお知らせ

四月十八日のお教祖誕生祭に引き続き十九日には婦人会総会が催されます。

来年には婦人会創立百十周年を迎えますので、各地での決起大会が行われます。品川支部管内では、六月十六日 本荏大教会
六月二十三日 日本橋大教会で開催されますので是非参加願います

・天理時報手配り者へ

いつも時報の手配りにご協力有り難うございます。お陰様で教区全体では64%程度のところ、品川支部はほぼ全てを手配りさせて頂いております

今回二十二日に手配りひのきしん者対象に、親睦のための食事会を企画いたしました。

十一時半から品川プリンスでの食事会支部では車を数台拠点に用意し一緒に集まって行きますので、是非多くの参加をお待ちしています。

お問い合わせ、申し込みは九日までに拠点又は水豊田石田会長までご連絡願います

・鼓笛バンドコンクール

第四十五回鼓笛バンドコンクールが三月三日行われました。少年会員五百九十三名、育成会員三百五十七名、一般二百五十名と品川支部からも多数の方が参加され盛大に行われました。

拠点教会	7日号	14日号	21日号	28日号
日本橋	手配り	手配り	直送	手配り
本荏	手配り	手配り	直送	直送
南泰	手配り	手配り	直送	直送
三ツ木	手配り	手配り	直送	手配り
水豊田	手配り	手配り	直送	直送

時報手配り四月予定

全国一斉ひのきしんデー

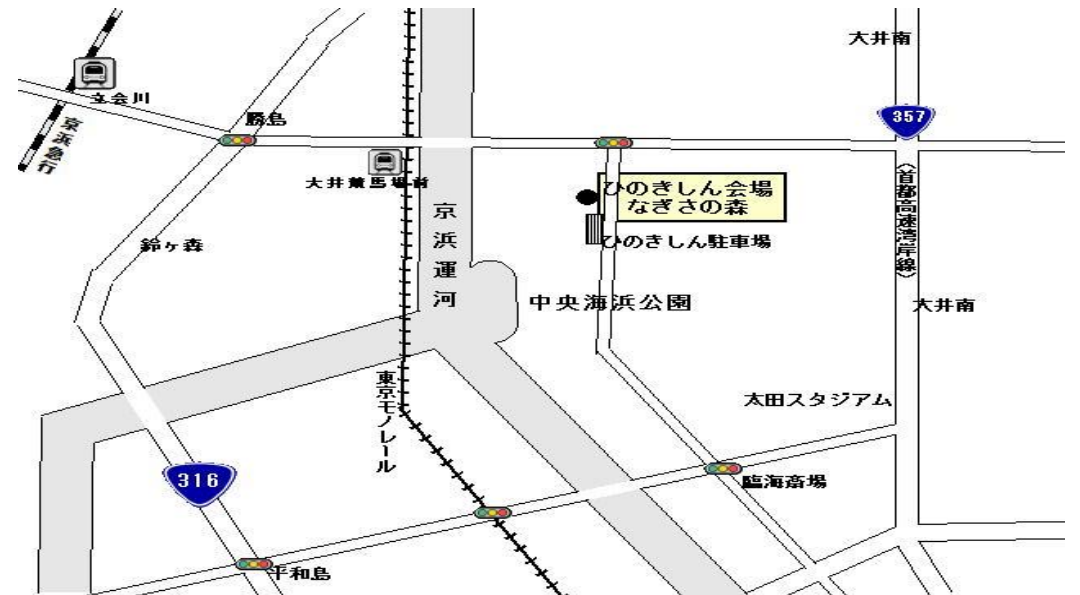
平成31年4月29日 (月祝日)

10時開始

場所 大井中央公園 なぎさの森

内容 草取り、掃除、ゴミ拾い等

*** 道具はある程度は用意有ります、昼食は各自又は家族、グループで持参公園の草の上で。その後、30分程度午後のひのきしんをして、お楽しみ抽選会等で楽しんで頂きます**



私の信仰



母が九八歳になる三ヶ月前の事。検査の結果、直腸癌で癌はすでにリンパに転移していることが医師から知らされ、その際「いわゆる延命治療をするのか、しないのか、今のうちに家族で話し合っておくように」と言われた。姉弟三人でいろいろ話し合おううちに、「直腸が癌に依って塞がれ、便が出せなくなった時に行なわれる人工肛門手術も、延命治療だから自分は反対する」と一人が言い出した。「九八歳にもなった母に手術なんて痛い思いはさせたくない」と言う気持ちには分かるし、皆同じ気持ちだが、「便が出せないって、それはどういう事なの？そっちの方が手術よりも苦しいんじゃないの？」と私。三人の思いは平行線のまま時間切れ解散となりそうなる時、私は本部・北礼拝殿でいつも会う先生に教えて頂いた「六回のお願ひ勤め」を試してみるのはこの時だと思ひ、それを二人に教えその日から「六回のお願ひ勤め」にかかった。

「直腸にあるガンが大きくなりぬよう、人工肛門手術などせずに済みますよう、ご守護下さいませよう、お願ひ申し上げます」と四十分程の「六回のお願ひ勤め」を毎日続けた。結論から言うと癌は大きな塊にはならず、ひよるひよると細長く成長し、ついには肛門からしっぽの様に外に、はみ出してはいたが、「便を柔らかく保つていけば、詰まってしまうことは無いだろう」と担当医から言われる結果となった。「人工肛門手術の必要はなくなった。親神様が願ひを聞いて下さった」と私は受け止めた。検査入院の日から約半年が経っていた。翌日から、リンパに転移している癌の影響であちこちが痛みだすのかな？という素人考えから、「この世に置いて頂く間は痛まずに苦しむこと無く健やかに過ごさせて頂けますように」とお願ひの内容を変え、相変わらず「六回のお願ひ勤め」をし続けた。ある時、私の留守中に「足の付根の辺りが痛い」と泣いて訴える母に、姉は救急車を呼び主治医に診てもらおうが、股関節骨折の疑いありで他の

病院に入院となった事と「明日入院に必要なものを持って病院に行つてね」と私に連絡してきた。実は、諸事情が重なって五日間お願ひ勤めを出来ずにいたのだ。自宅に帰るなり親神様にお詫び申し上げ「六回のお願ひ勤め」を再開した。翌日病院に行くので姉長さんから話があるからと談話室に呼ばれ、骨折はしてないことや早く歩けるように等、今後の治療方針の説明を受けている時、廊下を歩いている母を見つけた。「あ、母さん！と思わず声に出してしまった私。「えっ！あの方がお母様ですか？」と驚き慌て、ためぐ姉長さんや看護師さん達。私は胸の中で親神様にお詫びとお礼を申し上げていた。母が出直してしまふ二週間ほど前、母のオシメを替えた妹が私の側に座り「あれが痛くない筈なんだけども、あ：やっぱりお願ひ勤めが効いているのかなあ」と、しみじみと言った事がある。母は私には下の世話はさせなかつたから、どんな事になつて

いるのか分からないが粘膜が肛門からはみ出てしまつて

眠るようになって出直した母の最後を看取り、救急車が来るまでの間(土曜日は主治医に連絡が取れない為救急車を呼ぶしかなく)親神様に心よりお礼を申し上げ、お勤めをした。私が本気で信仰を始めた時だと思ふ。

あれから六年が経つが今でも「六回のお願ひ勤め」を続けている。母が出直すのと前後して宮城に住む信者さんが心筋梗塞になった為だ。母の時にはあれほど鮮やかに効いた「六回のお願ひ勤め」だが、今度は少し様子が違ひ、もう六年もお願ひし続けているがなかなか治らない。かと言って発作は起こらず、持ち歩くニトロなるものを使つた事は無いという。半分効いて半分効かずだ。お願ひ勤めをやめた途端、何かあつても困るので、やめる訳にもいかない。私の様な者にも出来るお助けだと思つて続けさせて頂いている。

三輪元治
本大崎分教会長